

みんなの健康ラジオ

『突発性難聴について』

(2019年11月21日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

国家公務員共済組合連合会

横浜南共済病院 耳鼻咽喉科

生駒 亮

治療

突発性難聴の治療における大きなポイントはできるだけ早めに開始する事で、治療開始が早いほど成績が良いとされる。

薬物治療は基本は副腎皮質ステロイド（以下ステロイド）の内服や点滴である。

ステロイドに加え、ビタミンBや循環改善薬の内服、点滴を行う場合が多いが、確立したものはいまだない。

治療方法

治療を行う場合、クリニックに通院してのみ薬で経過をみながら数日おきに聴力検査をする場合と、入院施設のある病院に紹介状を書いてもらい、入院のうえ点滴治療を行う場合とがある。

軽症の場合にはクリニックに通院になることが多いが、中等症から重症の場合には、入院治療になることが多い。

大きな病院は紹介状が必要な場合が多いので、まずはクリニックを受診する。

入院治療のメリット

入院での点滴治療は、のみ薬に比べステロイドの大量投与が可能である。

突発性難聴の原因のひとつに「ストレス」があると考えられているため、日常のストレスから解放され、安静を保てる。

ステロイドの副作用が出た場合に、すぐに対応できる。具体的には、高血圧や糖尿病の悪化、胃炎・胃潰瘍、精神的不安定、皮膚のふきでもの、ウィルス性肝炎のある方は肝炎の劇症化、など。

新しい治療

鼓室内ステロイド療法

ステロイドを耳に注射することにより、より高濃度のステロイドが内耳に到達する、という治療。ステロイドの全身的副作用が非常に少ない。

現在保険適応になっていないが、一部の医療機関で実際に行っている。

治療の上乗せ効果が高いとの報告が多く、保険適応になることが期待される。

高気圧酸素療法

突発性難聴の原因と考えられる血流障害に対する治療。

保険適応になっており、設備のある医療機関で施行している。副作用もある。

治療効果

残念ながら、早めに治療を行った全ての患者さんが治るわけではない。

完治する方、改善するが完治ではない方、治らない方がそれぞれ1/3程度とされている。

めまいのある方や、重症の方は治りにくいとされている。

だからこそ早めの治療が重要である。

気になる症状があれば、早めに耳鼻咽喉科を受診することが大切である。